



日本ボーイスカウト川崎地区賛助会
2021年6月 No.11

BOOMERANG

ボーイスカウト川崎地区賛助会は1984年に川崎地区協議会の財政支援を目的として、川崎地区の有志により設立されました。この会報「ブーメラン」は当会の歴史と活動内容を広く皆様へご紹介する目的で発行しているものです。また、賛助会の運営趣旨にご賛同いただける方へのご入会促進メッセージでもあります。この機会に是非ご入会を検討いただければ幸甚です。

ご挨拶

日本ボーイスカウト川崎地区賛助会
会長 木村耕三

平素は日本ボーイスカウト川崎地区賛助会にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。お蔭様を持ちましてボーイスカウト川崎地区賛助会の運営につきまして順調に遂行できますことに衷心より御礼申し上げます。ご案内の通り新型コロナウイルスの流行により2度の緊急事態宣言が発令されました。

日本連盟から12回に渡り「新型コロナウイルス感染への対応について」の文書が発信され、その内容は「政府による緊急事態宣言対象地域については、宣言内容および各都道府県知事から要請のある緊急事態措置に則った対応を行う。」というものでした。これによりボーイスカウト活動も自粛状態が続き、活動が停滞する状態が続きました。

その中にもあってもマスク着用・検温・手洗い・3密回避などの安全対策を施して多くの団が出来る範囲でスカウトの為に活動を行いました。しかしながら賛助事業であるボルチモア姉妹都市交流・川崎地区70周年記念フェスタ等の事業が延期を余儀なくされたことは残念なことでございました。

令和3年度は高校生対象活動の「GATC」、中学生対象事業の「白梅隊」、「webによるボルチモア姉妹都市交流」等に賛助される予定です。

当会はコロナ禍に於けるボーイスカウト活動を応援すべく明日を担う青少年の活動に資するよう、川崎地区のスカウトのために資金援助に務めてまいります。

会員の皆様には今後ともご支援ご協力を賜ります様衷心よりお願い申し上げます。



【特集】コロナ禍におけるスカウト活動

■川崎第43団

VS 隊長 西角 恵輔

・新型コロナウイルス感染防止下のキャンプ
43団ベンチャー隊は、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に取った上で、野外活動を継続し、キャンプに関する進歩を進めたいと考えて、2020年の12月に耐寒キャンプを実施しました。まずはキャンプに入るまでの体調管理と検温を徹底し、当日に検温をしてキャンプの参加条件を設けました。そしてソロテント設営、ソロクッカーによる調理を徹底

し、食事の時も密を避けて、各が個別に食事をするようにしました。それ以外はマスクをした上で、密



を避けて活動しました。12月という寒い時期ではありますが屋外での活動は清々しく、また夜は火を囲んで、マスクをしながら語り合うことやスカウトそれぞれが次の進歩の目標達成にむけた取り組みとサイン取得を進めることができました。

昨今はWeb会議も浸透し、隊会議であればPCや携帯を通じたコミュニケーションが可能です。ベンチャリングを実施の上の様々な企画は、IT技術を駆使して進めることはできます。しかしながら、ちかいとおきての実践を、経験を交えながら話し合ったり、進路を決める重要な岐路に立っているベンチャースカウトたちと腹を割って語り合うには、対面で、野外で活動することが重要だと考えています。

今後も困難を伴う時期が続くと思いますが、工夫しながら、野外活動を継続したい、するべきと考えております。

■川崎第54団

BVS 隊長 陶山 優子

・「ワクワク自然体験あそび」

いつもの場所で

いつもと違った遊びをしよう！

12月晴天の日曜日、小学校の中庭と隣接した公園で、近隣のお子さんとボーイスカウトの子どもたちで「自然体験遊び」をしました。



コロナ禍、感染対策をしながら、みんなで仲良く、自然を体験し、ワクワクする企画をと、リーダーや保護者が協力し、テーマ「いつもと違う場所で、いつもと違う遊びをしよう！」をもとに6つのブースを設けて、異学年の子どもたちで10グループを作り、実施しました。

近所の公園で、自然を感じてもらうためには小道具「自然物」が大切です。木の実も、団栗・銀杏・



榎・胡桃・黒松・赤蝦夷松・ヒマラヤ杉の松かさなど、色々名前を知って

もらい、暗箱に実際に手を入れて手触りクイズや、団栗コマや木の実リースの工作。嬉しいことに、アンケートでは、お子さんのみならず大人の方々も楽しかったと感想をいただきました。自粛生活では体

験できない年代を超えたお子さんとの触れ合いと、思いっきり体を動かしたことにより、心地よさを感じられたようです。公園の小さな自然の中でも五感と体を使った体験は、お子さんの心にワクワクした気持ちを残すことできたのではと思っています。

■川崎第57団

BS 隊長 高橋 夏樹

・コロナ禍におけるスカウト活動

Webは、ローバー隊あるいはベンチャー隊以上のスカウトでしたら、普段から仕事・学習で利用していると思いますが、多くのボーイ隊以下のスカウトたちは初めての利用で、新鮮な活動となったと思います。



57団では2020年の上進式をwebで開催しました。その為に複数回、団委員・隊リーダー・全保護者で通信リハーサルを実施しました。先ずこのリハーサルが、子供たちのスカウト活動を中断させてはならない、との大人のスカウティングであったと思います。

また、ビーバー隊とカブ隊では、保護者共々のweb隊集会を開催し、楽しいゲームでみんなとの繋がりを確かめていたと思います。一方、ボーイ隊では会えないときの”旧式”手段、隊長よりハガキを出しましたが、スカウトたちは一生懸命返事を書いてくれましたが、保護者には“旧式”がはまったのか予想以上の反応でした。最新のツールも旧式のツールも両方使えるようにならねば、と思いました。

■川崎地区の団分布と紹介

川崎地区協議会長 境 紳隆

令和3年度より、日本ボーイスカウト川崎地区協議会の会長を拝命致しました境でございます。

ここでは「川崎地区の特徴」と近年実施された団の統廃合について簡単に触れさせて戴き、「川崎地区の団の変遷」を紹介させて戴くことに致します。

さて、川崎地区協議会には現在11個団(川崎第22団・26団・38団・39団・43団・46団・49団・53団・54団・56団・57団)が加盟しております。当地区の最大の団号は57団なのに合計団数が11個団ということは、46もの団号が何らかの理由で使用されなくなっている(廃団・休団)ということになります。それは何故でしょうか？

川崎市は京浜工業地帯の中核都市であり、戦後復興期より高度成長期に掛けて大規模工場が多数設立

されました。そこには全国各地から「集団就職」で中卒・高卒の「金の卵」達が集められて来ました。

そうした若い労働者に対する「学校外教育の一つ」として、ボーイスカウトが導入され、多くの団が企業を育成団体として設立されました。しかしながら、時代の変遷と共に新規採用の中心が大卒に移行して行った結果、企業における学校外教育の担い手としてのボーイスカウトの役割が失われて行きました。幾つかの企業団は、その後地域団に転じて生き残っていきませんが、企業団の多くは廃団の已む無きに至りました。

スカウト人口が急増した昭和50年代後半に55団が発団した後、新規団の誕生は蔭を潜めてしまいます。手許の資料を見ますと、平成16年度から平成24年度までずっと同じ21個団が登録されています。区別に俯瞰しますと、川崎区に3個団(3団・21団、30団)、幸区に4個団(26団・38団・44団・45団)、中原区に6個団(2団・5団・8団・22団・40団・55団)、高津区に1個団(39団)、宮前区に2個団(49団・54団)、多摩区に3個団(42団・46団・48団)、麻生区に2個団(43団・53団)がありました。これがR3年度には、川崎区に1個団、幸区に2個団、中原区に2個団、高津区に1個団、宮前区に2個団、多摩区に1個団、麻生区に2個団の、計11個団となっています。



日本のスカウト人口は、昭和58年をピークとして近年減少を続け、現在ではピーク時の約1/3にまで減ってきております。川崎地区では平成24年度に「再興支援特別委員会」を組成し、地区を挙げて再興に取り組むことになりました。議論を重ねた結果、スカウト活動の最大の特長である「小グループ(組や班)を形成してスカウトがスカウトを指導する」活動ができなくなり、スカウト活動の魅力が失われたことが主たる要因であると分析されました。

そこで、平成26年3月末までに「複数の組・班を組成することのできるCS隊・BS隊を有すること」を団継続登録の要件と定め、各団に改革を求めました。自分の団だけで「登録要件」を満たすことができない団は、近隣団との合併も検討することとし、その結果平成26年度には、川崎区の3個団が合併して「川崎第56団」を、中原区の2個団(40団・55団)が合併して「川崎第57団」を新たに立ち上げることになりました。また、幸区の45団は26団に合流し、中原区の5団は高津区の39団に合流す

ることになりました。

この過程で、幸区の44団、中原区の2団、8団、多摩区の42団、48団は継続登録を断念し、廃団(休団)となりました。

このような痛みの伴う団の再編を経て、川崎地区は現在11個団で活動し、近い将来「スカウト活動の再興」が叶うものと期待して各団頑張っております。

【特別寄稿】

■ボルチモアとのスカウト交流

ガールスカウト川崎市連絡会
会長 坂本 理恵子

2019年からガールスカウトはこの交流派遣に参加させていただいております。この事業にお誘いいただき、また温かく受け入れていただいたことに心より感謝致します。

昨今ガールスカウトは海外交流派遣が減り、「異文化交流」を体験する機会が無いスカウトたちにとってはこのボルチモアとの交流事業に参加する事はとても良い機会でした。



私も2019年、2020年は副長として参加させていただき、2020年はスカウト5名(内大学生年代3名)が派遣隊として参加することが出来ました。

ガールスカウトにとってはボーイスカウトとの交流も「異文化交流」のようなもので、それも楽しむことが出来ました。参加スカウトたちにとっては一生の思い出に残るかけがえのない素敵な経験ができたことでしょう。

2020年に初めてガールスカウトがボルチモアに訪問するということが、当時副長のマリリンの尽力でセントラルメリーランド州のCEOへの訪問ができ、また、ガールスカウトのキャンプサイトへ訪問させていただくなど沢山のボルチモアのガールスカウトとの交流機会を作っていただきました。スカウトたちは本場のサモアを作ったり、一緒に歌を歌ったりと楽しい時を過ごすことが出来ました。今回のボルチモア派遣の際に20年以上も前に我が家にホームステイした元スカウトたちと会うことが出来ました。これは長期継続している交流事業ならではの思い出です。ここまですべて継続されている方々には頭が下がるばかりです。



「異文化交流」では相手のことを知ると同時に自分たちのことを話す機会が多くあります。自分たち

の事も再確認できるということです。出来るだけ多くのスカウトたちにはスカウト交流事業を通して、普通の旅行では味わえない体験をして欲しいと願っています。

派遣隊報告書にも明記しましたが、ボルチモアでお世話になったマリリンからの言葉がこの事業の本来の形だと思えます。「この事業はスカウトが楽しむための交流会。スカウトが楽しむことが大事。そしてあなたもね！」これからもこの事業が継続していくように、そして沢山のスカウトたちがこの事業に参加し、楽しんでもらえるように、微力ながらもお手伝いさせていただきます。もちろん自身も楽しむことを忘れずに・・・。



くように、そして沢山のスカウトたちがこの事業に参加し、楽しんでもらえるように、微力ながらもお手伝いさせていただきます。もちろん自身も楽しむことを忘れずに・・・。

■第203回 理事会報告

2021年3月14日 WEB 理事会議開催

(1) 2021年度 賛助金関連報告

6月の総会に提出する予算案が決定されました。

① ゴールデンアックス	90,000 円
② 第30回ボルチモア交流派遣	50,000 円
③ ビーバーまつり	40,000 円
④ ボーイスカウト講習会	30,000 円
⑤ ボーイスカウト野外活動講習会	20,000 円
⑥ 白梅隊	50,000 円
⑦ ローバーイベント	20,000 円
合計	300,000 円

- (2) 総会に向けての準備
- (3) 川崎地区活動報告
- (4) ブーメラン誌 (No. 11号) の発刊について
- (5) 会員増強について

■賛助会員の分布 (2021年3月現在)

- ・ 準会員 11名
- ・ 個人会員 95名 (議員含む)
- ・ 団体会員 26団体 (14法人含む)

■会員募集

賛助会は随時会員を募集しております。青少年育成にご理解とご支援をいただける方のご参加を歓迎いたします。

◆賛助会員の種類と会費

- ・ 準育成会員 (年会費) 一口 2,000 円
- ・ 個人会員 (年会費) 一口 5,000 円
- ・ 団体会員 (年会費) 一口 10,000 円

■お問い合わせ：賛助会事務局：鈴木

- ・ E-mail : sanjokai@scout-kawasaki.org

・ ホームページ：

<http://www.scout-kawasaki.org/sanjokai/index.html>

会員申込書はホームページからもダウンロードできます。

●編集後記

新緑のシーズン到来するも、コロナ騒動は衰えることなく社会を混乱に陥れている。

スカウト達よ、がんばれ！ 今は我慢のしどころだ。(H)



【法人会員のご紹介】 順不同・敬称略

富士高圧ガス工業株式会社 神奈川県川崎市鋼管通 代表 谷屋 利隆	株式会社 テクセ 神奈川県川崎市中原区新城 代表 出竹 博文	株式会社 沼崎商会 東京都世田谷区尾山台 代表 沼崎 匡一
日本エード株式会社 東京都中央区日本橋本石町 代表 小清水 克臣	株式会社 上作商店 神奈川県川崎市高津区向ヶ丘 代表 手塚 功	株式会社 清水製作所 山梨県北杜市長坂町 代表 清水 鐵朗
ドリームキッズさぎぬまナーサリー 神奈川県川崎市宮前区鷺沼 代表 富山 純江	岡田信司税理士事務所 埼玉県鶴ヶ島市 代表 岡田 信司	株式会社 杉山産業 静岡県焼津市坂本 代表 杉山 晴夫
特定非営利法人 子育てを応援する会 神奈川県川崎市高津区末長 代表 飯野 道子	コパロン株式会社 宮城県仙台市宮城野区扇町 代表 長澤 清	呉エンジニアリング有限公司 神奈川県川崎市中原区中丸子 代表 野沢 義幸
株式会社 保育所ひまわり 神奈川県川崎市幸区小倉 代表 耳田 英恵	株式会社 アヴオン 保育所 ピッコリ・アンジェリ 川崎市高津区末長 代表 青木しづ子	